2025年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは1986年から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、2008年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は2024年秋期の取引動向の概要について紹介します。

１　全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－１〕

近年の全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、今期も前年同期から減少しました。

今期の全体取引量は約3.1万本で、前年同期（約4.2万本）より約1.1万本減少しました。

用途別では、一般植木は対前年同期比69.2％、株・玉物は86.7％、生垣用樹は64.2％で、全体では73.8％となりました。

２　用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－１、図－２〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約0.9万本で、前年同期より（約1.3万本）より約0.4万本減少しました。

自然形では、カエデ類、キンモクセイが昨年同期より大きく減少しましたが、取引数量は上位で推移しています。

また、ヒバ類、モチノキは前年同期より増加したものの、取引数量は低調のままです。

仕立物では、クロマツ、ウバメガシが増加しましたが、イヌツゲ、イヌマキは減少しました。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約1.3万本で、前年同期（約1.5万本）より約0.2万本減少しました。

全体的にどの樹種も取引量が少なく、株・玉物の大半を占めるサツキ、イヌツゲ、ツツジ類の中で、サツキは増加し、イヌツゲ、ツツジ類がともに減少しました。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約0.9万本で、前年同期（約1.4万本）より0.5万本減少しました。

生垣の主要樹種であるサザンカ、マサキは減少傾向でイヌマキは増加しました。

３　調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－３、表－１〕

追加樹種を含めた全体全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、2016年には増加に転じたものの、翌年から減少傾向となりました。今期は前年同期（約7.8万本）から減少し、7.3万本となり、全体的には取引量は減少しています。

追加樹種を含めた取引上位10品目では、従来からオタフクナンテン、サツキが上位を占めています。

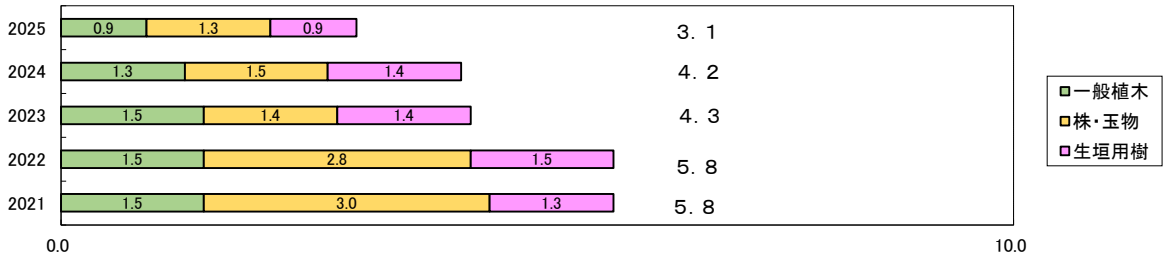
今期は、ヤマボウシが大幅に増加して順位を上げ、一方、サザンカ、カエデ類、キンモクセイが減少し、順位を落しました。

＊調査市場＊

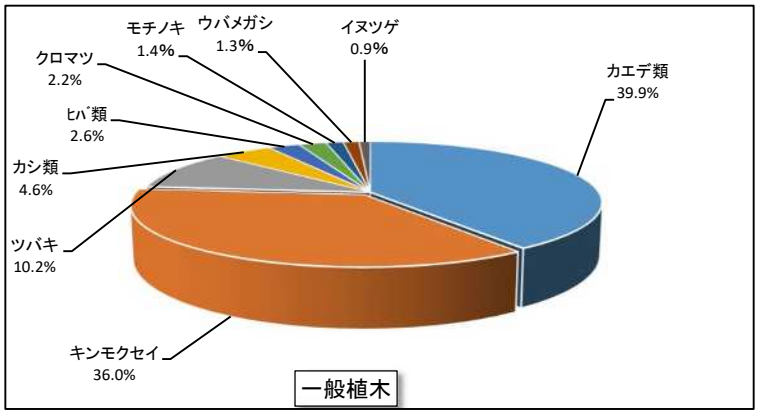
農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

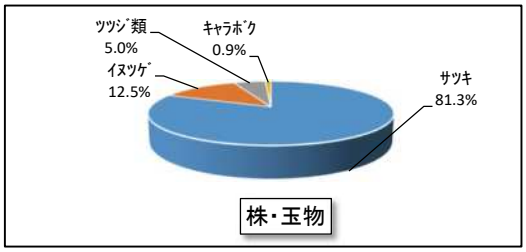
矢合植木市場株式会社　(稲沢市矢合町)

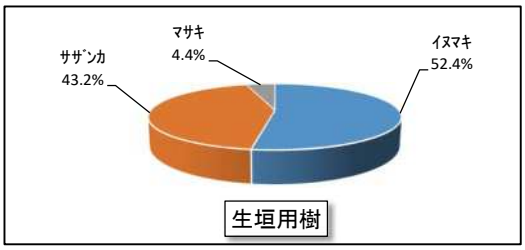
図－1　秋期取引量の推移　（単位:万本）



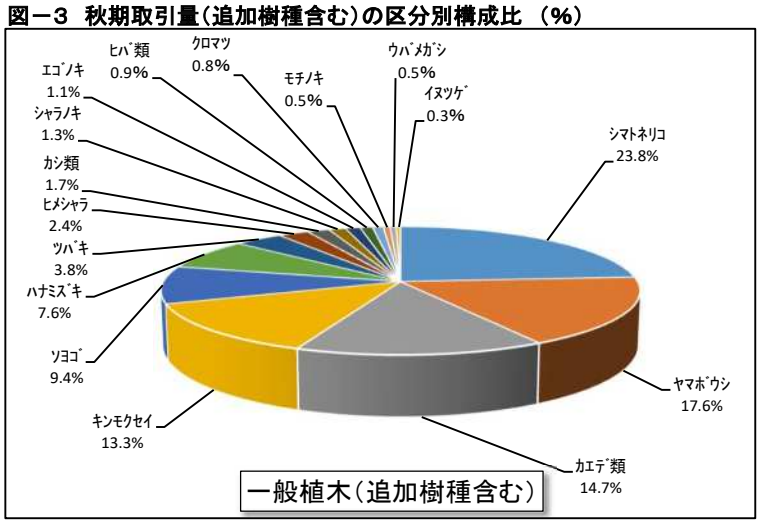
図－2　秋期取引量の区分別構成比　（%）

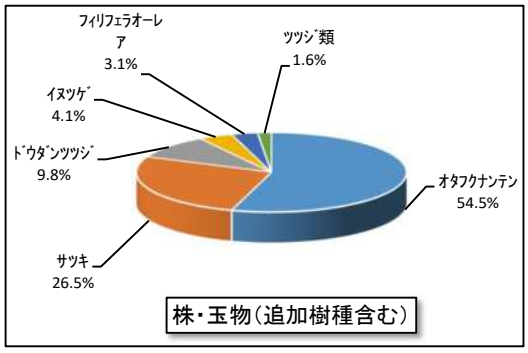






図－3　秋期取引量（追加樹種含む）の区分別構成比　（%）





表－1　秋期取引量上位10品目（追加樹種含む）の動き

順位	2023年			2024年			2025年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	オタフクナンテン	株	･･･	オタフクナンテン	株	･･･	オタフクナンテン	株	↑
2	サザンカ	生	･･･	サツキ	株	↗	サツキ	株	↗
3	サツキ	株	↓	サザンカ	生	･･･	シマトネリコ	―	･･･
4	キンモクセイ	―	･･･	シマトネリコ	―	↑	イヌマキ	生	･･･
5	カエデ類	―	･･･	カエデ類	―	↗	ヤマボウシ	―	↗
6	ヤマボウシ	―	↑	ソヨゴ	―	↑	サザンカ	生	↓
7	ツツジ類	株	↓	キンモクセイ	―	･･･	カエデ類	―	↘
8	イヌツゲ	株	↘	ドウダンツツジ	株	↑	ドウダンツツジ	株	↘
9	イヌマキ	生	↗	ヤマボウシ	―	･･･	キンモクセイ	―	↘
10	シマトネリコ	―	↘	イヌマキ	生	↗	ソヨゴ	―	↓

前期比　･･･：±20%未満　↗：＋20%以上40%未満　↘：－20%以上40%未満
↑：＋40%以上　↓：－40%以上　―：データなし

区分　―：一般植木　株：株・玉物　生：生垣用樹